Two-year outcome of first-line antiretroviral therapy among HIV-1 vertically infected children in Hanoi, Vietnam

著者	ファン フン ヴィエット
著者別表示	Pham Viet Hung
journal or publication title	博士論文要旨Abstractおよび要約Outline
学位授与番号	13301甲第3982号
学位名	博士（医学）
学位授与年月日	2013-12-31
URL	http://hdl.handle.net/2297/40434

doi: <https://doi.org/10.1177/0956462414556328>

論文内容の要旨及び審査結果の要旨

受付番号 甲第2381号 氏名 Pham, Viet Hung

論文審査担当者 主査 清水 徹 印

副査 西條 清史 印

中村 裕之 印

学位請求論文

題 名 Two-year outcome of first-line antiretroviral therapy among HIV-1 vertically infected children in Hanoi, Vietnam

(ベトナム国ハノイ市の HIV-1 母子感染児における一次抗レトロウイルス薬による二年間の治療効果)

掲載雑誌名 International Journal of STD & AIDS (印刷中)

低・中所得国において抗レトロウイルス療法（ART）を受けることが出来るようになった HIV-1 感染者数が著明に増加してきている。このことは HIV-1 感染者に、より有効な治療の機会を提供しているが、これらの国々における ART 効果のモニタリングには解決すべき問題が残されている。本研究は、資源が限られている国々において一次 ART 中の HIV-1 感染児の治療効果と治療失敗を評価するための安価で効率の良い基準を検討することを目的とした。2008 年～2012 年の間に ART で 2 年以上追跡調査が可能であった 86 名の HIV-1 感染小児の後方視的解析を行った。血中ウイルス量、これらの児の末梢血 CD4⁺T 細胞数、HIV-1 薬剤耐性関連アミノ酸変異を年 2 回モニターした。

結果は以下のようにまとめられる。

- (1) 86 名の HIV-1 感染小児のうち 68 名 (79.1%) が治療成功例（ART 治療 2 年後の血中ウイルス量 (VL) <1,000 copies/ml）で、63 名 (73.3%) では VL が検出限界以下 (VL<400 copies/ml) であった。
- (2) 治療成功群と失敗群の間で、治療開始前の VL、CD4⁺T 細胞数や臨床ステージ、ART 開始年齢または処方薬に有意な差は認められなかった。
- (3) VL>5,000 copies/ml の児 14 名全員と VL 1,000-5,000 copies/ml の児 4 名のうち 1 名のウイルスに治療開始後 2 年以内に逆転写酵素阻害薬耐性変異が検出されたが、治療成功例 (VL <1,000 copies/ml) のウイルスには検出されなかった。
- (4) Y181C と M184V/I が、それぞれ最も高頻度に検出される非核酸系と核酸系逆転写酵素阻害薬耐性変異であった (86.7%)。

以上の結果から、開発途上国では治療開始後 24 ヶ月での血中ウイルス量測定が ART 失敗例を効率よく鑑別するのに有効ことが示唆された。

本研究は、ほとんどの HIV 感染者／エイズ患者が生活している開発途上国において、小児における一次 ART 効果の効率よい鑑別法を明らかにした労作と評価され、学位に値すると判断された。